

多職種連携推進研修部会の第1回研修会が開催されました



2018年9月28日

第1回多職種連携研修会

さる9月28日上越市市民プラザ 第3会議室にて第1回多職種連携研修会を開催しました。

参加者は、医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、相談員、リハビリ職、介護支援専門員、介護員、福祉用具専門相談員等30名、部会委員4名、事務局4名の計38名です。

多職種連携研修会は、参加者の皆さんから、各職能団体や職場で地域連携連絡票の活用をすすめていくリーダーとなっていたため、「その人らしさ、持ち味、生活力がかかわる多職種で共有し、その人が本来持つ力を引き出し、在宅での生活を継続していくために、多職種連携のツールとして地域連携連絡票を活用することができる」を目標に、年3回開催します。

○第1回研修会内容

【テーマ】地域連携連絡票について学ぶ

第1回研修会では、地域連携連絡票がどのような情報から構成されているのかを改めて確認しました。

また、地域連携連絡票からとらえた状態像やどのように情報が記載されているとより分かりやすいか等について話し合い、以下の意見がでました。

～ クループワークから ～

- 地域連携連絡票は、一枚に状態像を把握するための十分な情報量が載っている。
- 記入は大変であるため、関わる皆で協力して記入できると、より詳細でリアルタイムな情報共有ができるのではないか。
- 日中の過ごし方や好きなこと、趣味、仕事歴が分かるとより相手を理解しやすい。
- これまでの生活歴が分かると、よりその人に合ったサービス内容を考えることができる。
- 家族構成だけでなく、介護力の部分まで記載されていると、退院後の生活をイメージする際に参考となる。
- 歯に関する情報は、食事内容の欄やADLの使用用具や介助内容の欄に義歯の有無を記入するとよい。
- それぞれの職種によって感じたことや見ている視点、必要としている情報が異なっており、いろいろな意見が出た。

○第2回研修会内容

10月26日(金) 19時から20時30分
上越市市民プラザ 第2会議室

第2回は、「退院時カンファレンスについて学ぶ」をテーマに、地域連携連絡票を用いた模擬カンファレンスを行います。

